

# 市立大洲病院

院内の本当の完全電子化を目指して  
データを統合的に管理できるシステムを導入



佐藤武司副院長とスタッフの皆さん

## 導入経緯

### 医療情報の電子化を完璧にするために

当院の医療情報電子化の取り組みは2014年2月にオーダリングシステムの導入から始まり、完全電子化を2015年12月に完了させました。しかしながら、完全電子化を実施するにあたり、「その診療行為が、いつ、どこで、どのように実施されたかが容易に判別できない」という新たな課題が見つかりました。

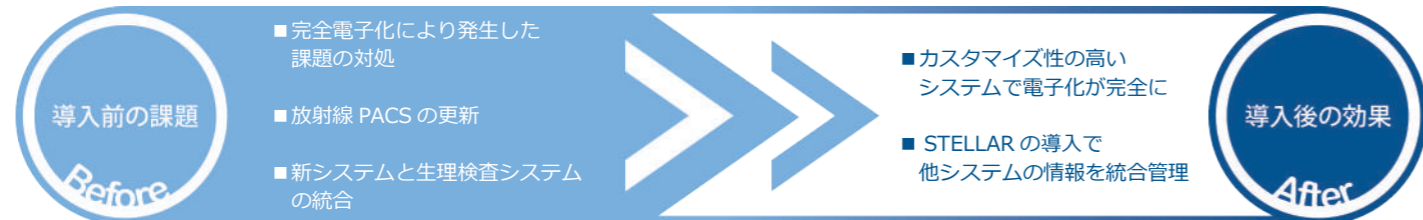
また完全電子化にも関わらず、どうしても紙文書が発生するという問題もありました。そのため、それらのデータを統合的に管理できるシステムを導入する必要がありました。

新しいシステムを導入するにあたって、放射線 PACS の更新や生理検査システムとの統合も課題の一つでありましたので、それらの課題を克服できる柔軟かつ汎用性の高いシステムの導入は大きな課題であり、検討しておりました。

将来的に考えて拡張性および発展性が見込めるシステムであること、さらに部署間で異なる様々な要望に対して迅速かつ柔軟に対応できるシステムであることを最大のポイントとして検討した結果、アストロステージ製品の選定に至りました。

## 導入システム

- DICOM 画像管理システム Nazca
- RIS システム NazcaRIS
- 診療情報統合システム STELLAR
- ドキュメント作成&管理システム STELLARReport
- 画像キャプチャシステム ARKGate



## 導入効果

### 初めての電子化でも問題なく稼働 患者様への情報提供もスピーディに

心電図やエコー検査等の連携を行い、所見についても STELLARReport を使用することで、画像とレポートが時系列で表示され、医療現場へシームレスな情報提供が可能となりました。専門性の高い部署において電子媒体への移行が困難な文書もありましたが、柔軟なカスタマイズ機能を持つ所見システムで、現場のニーズに沿った文書フォーマットを作成できたことも良かったと感じております。紙文書については、スキャン取込で STELLAR に取り込めるようになりましたので、時系列で分類ごとに容易に可視化が可能となりました。

また、救急医療現場や褥瘡回診等の写真を撮影する際に、iNazcaPhoto で迅速に STELLAR にアップロードできるため、現場としては非常に助かっております。アプリのバージョンアップにより「入院」カテゴリ絞り込みも可能となりましたが、このようなユーザーの要望に柔軟かつ迅速に対応される姿勢は、大きく評価できる点だと考えております。

電子化を行うことは当院としては初めての経験であり、放射線 PACS は他社からの変更となるため過去データ移行に不安を抱えておりましたが、画像データの劣化や欠落等の問題なく移行できました。

システム導入後、STELLAR で全データを即座に確認・印刷できるようになったため、医師同士でのディスカッションも増え業務能率が上がりました。それに伴い、患者様への情報の提供が早くなったことは非常に良かったと感じております。



情報管理室の皆さん

## 市立大洲病院：システム導入時期 / Dec 2015



医療は患者様と医療者の信頼関係の上に成り立つものであり、患者様の主体的な参加により医療を行う必要があると考えています。  
当院は「地域医療の確保という公共の福祉の増進」及び「常に企業の経済性の発揮」が使命とされており、職員一人一人が日々研鑽に努め、将来にわたり患者様に良質で安全安心な医療を提供することにより、患者様に選ばれ、地域に求められる病院となるよう全力を傾注してまいります。

所在地：愛媛県大洲市西大洲甲 570 番地  
病床数：151 床  
診療科：内科・外科・整形外科・泌尿器科・麻酔科・リハビリテーション科・眼科  
耳鼻咽喉科・皮膚科・放射線科

## 今後の期待・要望

現状においても非常に機能的かつ柔軟性に富んだシステムだと思っておりますが、さらに効率的かつ利便性のあるシステムの提供をして頂きたいです。訪問看護や往診時に双方向で情報共有が可能なシステムも実現化して頂きたいと考えております。

## 今後の方針

現在 STELLAR に未接続の機器についても順次連携を進めていき、拡張性と柔軟性を備えた STELLAR の活用を図ってまいります。また、地域連携ネットワークを医師会圏域にて導入することも検討しており、電子化された医療情報の活用が当院の今後の課題であると考えております。

## システム構成図

